

銀行勤務ではアジアでの事業融資を担当し成長のダイナミズムを体感するも、日本再生のため、故郷の兵庫に戻って政治活動を開始した

桜井 さくらい シュウ しゅう が

(伊丹・宝塚・川西)
衆議院担当



**デフレの正体は低賃金による低価格競争
高付加価値化と賃金上昇でデフレ脱却を!** について
“ズバリ”お伝えします!



桜井 周 (さくらい しゅう) プロフィール

【学歴】美鈴月影幼稚園、鈴原小、南中、県立伊丹高卒、京都大卒、京都大院修士、ブラウン大院修士
【職歴】国際協力銀行調査役などを経て伊丹市議会議員(2期)、民進党兵庫県第6区総支部長
【資格】TOEIC: 925、弁理士、国会議員政策秘書試験合格

デフレの正体は低賃金による低価格競争 高付加価値化と賃金上昇でデフレ脱却を!

いつになったら景気を実感できるのか?

安倍政権の経済政策「アベノミクス」が始まって3年が経ちましたが、一向に景気を実感するに至りません。2014年の実質GDP成長率は0%で、2015年も0.5%にとどまっています。これは民主党政権下

の3年間平均の2%を大きく下回っています。

このような結果になったのは、アベノミクスによって経済格差が拡大し、消費が低迷しているからです。実際、2014年の実質家計最終消費支出の伸び率は

マイナス1.2%、2015年はマイナス1.8%となっています。

アベノミクスの決定的な問題は、経済活性化と物価上昇の因果関係を逆転させていることにあります。一般論として「経済が活性化

すれば、結果的に物価が上昇する」と言えますが、物価が上昇したからと言って経済が活性化するとは限りません。例えば、石油ショックのときには物価は上昇しましたが不景気でした。

アベノミクス「3本の矢」を検証する

安倍政権では、金融緩和、財政出動、規制改革を3本の矢と呼んでいました。

まず、1本目の金融緩和によって、円安に誘導した結果、輸入物価が上昇しイ

ンフレになります。安倍首相はこれをデフレ脱却と言っていますが、庶民にとっては物価が上がるだけで給料が上がらなければ生活は苦しくなります。厚生労働

省の統計調査で示される通り、麻生政権で低下した給与水準は、民主党政権下で少々持ち直したものの、安倍政権になって低下傾向が続いています。

この10年で最低の賃金額にしたアベノミクス

年	現金給与総額(円/月)
2005年	278,211
2007年	275,294
2009年	267,297
2011年	268,628
2013年	266,712
2015年	266,426

出典：厚生労働省「毎月労働統計調査」の「現金給与総額」(各年10月のデータ)*1

裏面へ続く▶

民進党兵庫県第6区総支部 〒664-0858 伊丹市西台2丁目5-11 松屋ビル2階

TEL 072-768-9260
FAX 072-768-9261

メール sakuraishu.office@gmail.com
公式website http://www.sakuraishu.net/

日刊! 桜井シュウ ameblo.jp/sakuraishu/
月刊! 桜井シュウ http://www.sakuraishu.net/

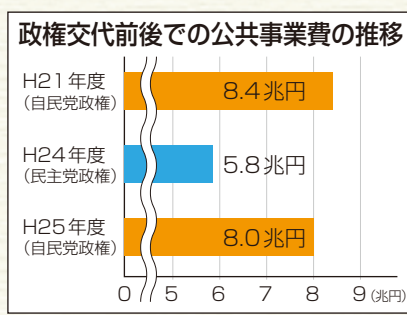


円安になれば、輸出企業が儲かって給料があがるはずだと言われていましたが、実際のところ実質賃金は下がっています。一部の輸出企業が儲かっていますが、多くの企業と庶民は輸入物価が上がっているため生活と経営は苦しくなっています。

昨年までは日経平均株価は上がっていましたが、金融緩和と称して日本銀行やゆうちょ銀行などが株式を大量に購入してきたからです。また、国民の貴重な財産である年金積立基金も運用見直しとして株式投資に振り向けられまし

た。こうした資金を動かすことで一時的に上げ相場を演出できますが、長続きはしません。

2本目の財政出動の実態は公共事業のことで自民党の伝統的なバラマキ政策です。自民党政権によって予算編成が行われたH21年度(決算)には8.4兆円だった公共事業費が、民主党への政権交代でH24年度には5.8兆円と3割以上削減し2.8兆円もの財源を捻出しました^{*2}。しかし、自民党政権に戻ったH25年度には8.0兆円と公共事業が復活しています。



一方で、民間最終消費は民主党政権時代の3年間で5.4% (年率1.7%) 増加しましたが、安倍政権になってからは0.5% 減 (年率0.2% 減) となっています。つまり、低迷する民間消費を公共事業のバラマキで取り繕うというの

*1 ▶ <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/30-1a.html>
<http://editor.fem.jp/blog/?p=1630>

*2 ▶ 財務省 https://www.mof.go.jp/budget/budger_workflow/account/fy2012/kessan_24_10.pdf

がアベノミクスの実態です。しかし、借金で賄う公共事業をいつまでも続けられるはずがありません。

もっとも重要な3本目の矢である規制改革は3年経ってもほとんど進んでいません。

結局、「3本の矢」について成果を検証することなく(成果が上がっていないから検証したくないのでしょうか...)、「新3本の矢」や「地方創生」「一億総活躍社会」など目先を変えようとしています。

価格競争からの脱却でデフレ脱却

ところで、日本の賃金はアジア諸国の数倍も高いのですから、価格競争ではとても勝てません。日本は量産型の商品・サービスから付加価値の高いものに移行すべきであり、労働集約型産業から知識集約型産業へ移行すべきです。

このためには、「良いモノを安く」売るのではなく「良いモノを高く」売るという発想の転換が必要です。良いモノを安くすれば誰でも売れます。問題は良いモノをその価値を消費者に理解し納得してもらい高く買ってもらうマーケティングです。例えば、ヨーロッパの高級ブランド(服飾、装飾

品、自動車など)は、品質も高いでしょうがそれ以上に価格も高くなっていますが、逆に高価格であることがステータスになり、高価格であるがゆえにステータスを求める消費者に売れるという状況になっています。また、高価格であるので利益率も高くその分、ブランド・イメージ維持のために投資ができるという好循環を生み出しています。

価格ではなく品質での競争となれば、高い品質に見合う賃金が支払われるようになり、デフレから脱却することができます。日本にはそれだけの高い品質の商品・サービス

があるはずですが。

しかし、現状、安倍政権と経済界は非正規雇用・派遣労働を増やすことで人件費を削減し、企業利益を増やそうとしてきました。企業にとっては非正規雇用・派遣労働はいつでも解雇できるので、人材育成の対象となりにくいのです。その結果、生産性は向上せず、むしろ国際競争力を失いつつあります。そして、賃金水準が低迷し、いつ解雇されるか分からない不安定な状況です。国内消費が低迷する、景気が改善しないから正規雇用が増えないなど雇用条件が改善しないというデフレの悪循環

が起きています。

もちろん、生産性(=働いた分)以上の賃金を支払うことはできません。だからこそ、経営者に生産性向上を迫るような政策が必要です。また、生産性を引き上げるような人への投資を行うべきです。そのためには、非正規雇用・派遣労働を減らすような労働法制に改めるべきです。これにより、賃金上昇と消費活性化の好循環を起こし、デフレから脱却できます。

ちなみに、派遣労働者が??万人もいる日本は世界的には特異です。

創造性は多様性の中から

また、高付加価値産業に移行するためには、高度な技術・技能をもつ人材、創造性豊かな人材、チャレンジ精神が溢れる人材が必要です。例えば、スマートフォンは日本製の高性能電子部品があって実現できた商品ですが、商品として開発されたのはアメリカでした。日本からも創造性あふれる商品・サービスを世界に提供することが期待されます。

そのための特異な能力を持った人材がその能力を発揮するには、違うことを認め合う、多様性を抱擁するような社会である必要があります。

これまでの我が国の学校教育は、規格品を大量生産するための人材、決められたことを決められた通りに遂行できる人材を育成してきました。教育においても情報を教員から生徒へ一方通行に供給する講義形式の大量生産方式でした。

これからは、個性豊かな人材を育てていくために、生徒一人一人の特性を見極めて、個性と個性のコラボレーションによって新たな価値を生み出す、そのためのコミュニケーション能力が要です。

我が国の教育の問題として

「詰め込み」が指摘されています。考える材料として知識と情報を頭に詰め込むことは必要です。不足しているのは、詰め込んだ知識と情報を基に考え活用する技術の習得です。

課題研究や討論・ディベートなどを取り入れ、現実社会の課題を特定し、協働して解決策を考えるような教育が求められています。

【一言コラム】

桜井シュウのネクタイは、なぜ赤いのか?

人気アイドル・グループ「嵐」の桜井翔(ショウ)さんは親戚ではありませんが、名前が似ているので、一方的に親近感を持っています。嵐のメンバーにはそれぞれイメージ・カラーがあり、桜井翔さんは赤です。私もあやかりました。

ちなみに、赤地に白抜き文字は街中の看板でよく見かけますが、これは目立つ配色だからでしょう。